

1. 件名：高性能容器(HIC)内スラリーの移替え作業に係る連続ダストモニタの仕様に関する面談
2. 日時：令和3年11月15日(月) 13時15分～14時50分
3. 場所：原子力規制庁18階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
岩永企画調査官、大辻室長補佐、知見主任安全審査官、高松専門職、久川係員
平山技術参与、吉田技術参与、近藤技術参与、林技術参与
(テレビ会議システムによる出席)

福島第一原子力規制事務所(テレビ会議システムによる出席)
小林所長、廣岡原子力防災専門官、坂本原子力運転検査官

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所 担当6名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、高性能容器(以下「HIC」という。)内スラリーの移替え作業に係る前回(11月4日)面談でのコメントを踏まえて、HIC内スラリーの移替え作業で使用した連続ダストモニタの仕様について、資料に基づき以下の説明があった。
 - 連続ダストモニタ iCAM の仕様・特徴
 - HIC内スラリー移替え作業におけるダスト監視の目的
 - 連続ダストモニタのトレンドグラフの修正
 - HIC内スラリー移替え作業時のダスト濃度測定データ
 - 増設多核種除去設備(ALPS)建屋におけるダスト濃度の追加測定結果
- 原子力規制庁は、上記の説明を受けて、以下のコメント等を行った。
 - 瞬間的なダスト濃度変化が予想される作業時の環境を測定するにあたっては、平均化時間(DT)の今回の設定時間(1時間)は長すぎると考えられるため、検出下限値との相関を整理した上で、設定時間の見直しを検討すること。
 - 今後取り扱うこととなるHIC内スラリーの放射能濃度が4桁近く高いことから、SEDS排気フィルタ通過前のダスト濃度を評価しておくことが重要であると考えため、当該濃度の測定手法等について検討すること。
 - 前回面談で説明のあった低線量HIC1基目の追加調査に関して、静置されているHIC内のダスト濃度分布データを取得する目的について、今後の高線量HIC内スラリー移替え作業の安全対策の検討との関連性を整理しておくこと。

6. その他

資料：連続ダストモニタ(iCAM)でのダスト監視について